

## 第3章

# Award BIOS

この章では、BIOSセットアップの方法について解説します。



**重要:** 新しいデバイスやOSなどに対応する為に、BIOSは随時アップデートされています。その為、一部本書の内容と実機の画面が一致しない場合も考えられますがご了承願います。

## AWARD BIOSの設定

---

### 3.1 BIOSセットアップメニュー

BIOS用フラッシュROM内にはBIOSセットアップ用のユーティリティソフトが納められており、ここで設定・変更された内容は、フラッシュROM内に設けられた128バイトの領域に保存されますので、電池切れや意図的にCMOSクリアを行った場合以外は内容が保持され続けます。



参考: "Load Setup Defaults"は最も一般的かつ我々が推奨する設定です。"Load Turbo Defaults"は最もパフォーマンスが上がる設定ではありますが、たくさん増設したシステムではお勧めできません。詳しくはマニュアル3.7を参照してください。

起動時に~~DEL~~キーを押すことにより、設定セットアップメニューに入ることができます。メニュー内では、矢印キーでカーソルを移動させ、PageUpまたはPageDownキーで内容を変更し、Enterキーで設定します。また、ShiftキーとF3キーを同時に押すことにより、表示される言語を切り替えることができます。

# AWARD BIOSの設定

## 3.2 スタンダート CMOS セットアップ

"Standard CMOS Setup" (スタンダート シーモス セットアップ) は、日付・時刻・ハードディスクの種類等、システムの基本的な設定をする項目です。矢印キーで項目間を移動し、**PGUP** と **PGDN** で値を変更します。

### Standard CMOS → Date

カーソルが反転しているところで **PGUP** または **PGDN** キーを押すことで、日付を設定できます。書式は、月・日・年です。

### Standard CMOS → Time

カーソルが反転しているところで **PGUP** または **PGDN** キーを押すことで、時刻を設定できます。時計は 2 4 時間製で設定します。

- Standard CMOS → IDE Primary Master → Type
- Standard CMOS → IDE Primary Slave → Type
- Standard CMOS → IDE Secondary Master → Type
- Standard CMOS → IDE Secondary Slave → Type

<b>IDE Primary Master</b>
Auto
Manual
None

この項目では、IDEハードディスクを手動設定できます。ハードディスクのラベルや説明書には、シリンダ数・セクタ数・ヘッド数が記載されていますので、自動設定でうまくいかない場合は、これらの項目を入力して手動設定してみてください。（ただし、内容が書き込まれているハードディスクでこの設定値を間違えると、最悪の場合内容が破損する場合があります。） CD-ROMドライブに関しては、この設定項目に関わらず自動で検出されます。



**Tip:** 通常は自動設定のままでお使い下さい。ハードディスクの構成を頻繁に変更する場合以外は、**IDE HDD AutoDetiction** で検出させておくと、システムの起動時間を短縮できます。

## AWARD BIOSの設定

### Standard CMOS → Drive A

### Standard CMOS → Drive B

#### Drive A

None  
360KB 5.25"  
1.2MB 5.25"  
720KB 3.5"  
1.44MB 3.5"  
2.88MB 3.5"

この項目では、フロッピーディスクドライブの設定を行います。このマザーボードでサポートされる形式は、左記の通りです。

注：1.25MB 3.5"タイプのメディアはサポートされません。

### Standard CMOS → Video

#### Video

EGA/VGA  
CGA40  
CGA80  
Mono

この項目は、過去の資産との互換性確保の為に用意されています。通常はEGA/VGAモードに設定してください。

### Standard CMOS → Halt On

#### Halt On

No Errors  
All Errors  
All, But Keyboard  
All, But Diskette  
All, But Disk/Key

このパラメータを変更することにより、起動時に行われるPOST( Power-On Self Test)でチェックする項目を選択できます。No Errorsに設定すると、POSTでエラーがあっても無視してシステムを起動する。

## AWARD BIOSの設定

### 3.3 拡張 BIOS 設定

BIOSのメインメニューから"BIOS Features Setup" を選択することで、拡張BIOSセットアップメニューに入ることができます。

#### Advanced BIOS Features → Virus Warning

##### Virus Warning

Enabled  
Disabled

この項目をEnableに設定すると、BIOSがハードディスクのブートブロックを監視して、変更が加えられた場合に警告メッセージを表示します。既存のアンチウィルスプログラムと競合を起こす場合もありますので、その場合はDisableに設定して下さい。

##### **! WARNING !**

Disk Boot Sector is to be modified  
Type "Y" to accept write, or "N" to abort write  
Award Software, Inc.

#### Advanced BIOS Features → CPU Internal Cache

##### CPU Internal Cache

Enabled  
Disabled

この項目では、CPU内部の1次キャッシュメモリを使用するかどうかを選択できます。何らかのトラブルシューティングをする場合以外は、通常Enableでご使用下さい。

#### Advanced BIOS Features → External Cache

##### External Cache

Enabled  
Disabled

この項目では、CPU内部または外付けの2次キャッシュメモリを使用するかどうかを選択します。何らかのトラブルシューティングをする場合以外は、通常Enableでご使用下さい。

## AWARD BIOSの設定

### Advanced BIOS Features → CPU L2 Cache ECC

#### CPU L2 Cache ECC

Enabled  
Disabled

この項目をEnableに設定すると、CPU 2 次キャッシュのECC(エラー補正)機能が有効になります。

### Advanced BIOS Features → Quick Power On Self Test

#### Quick Power on Self test

Enable  
Disabled

この項目をEnableにすると、システム起動テストを簡略化することにより起動時間を短縮できます。

### Advanced BIOS Features → First Boot Device

#### First Boot Device

A:  
LS/ZIP  
C:  
SCSI  
CDROM  
D:  
E:  
F:  
LAN  
Disabled

この項目では、システム起動時に最優先で起動するデバイスを指定します。

C: プライマリマスターIDEハードディスク

D: プライマリスレーブIDEハードディスク

E: セカンダリマスターIDEハードディスク

F: セカンダリスレーブIDEハードディスク

LS: スーパーディスク

Zip: IOMEGA ZIPドライブ

### Advanced BIOS Features → Second Boot Device

#### Second Boot Device

A:  
LS/ZIP  
C:  
SCSI  
CDROM  
D:  
E:  
F:  
LAN  
Disabled

この項目では、システム起動時に第2 優先で起動するデバイスを指定します。

C: プライマリマスターIDEハードディスク

D: プライマリスレーブIDEハードディスク

E: セカンダリマスターIDEハードディスク

F: セカンダリスレーブIDEハードディスク

LS: スーパーディスク

Zip: IOMEGA ZIPドライブ

## AWARD BIOSの設定

### Advanced BIOS Features → Third Boot Device

<b><u>Third Boot Device</u></b>	この項目では、システム起動時に第3優先で起動するデバイスを指定します。
A:	
LS/ZIP	C: プライマリマスターIDEハードディスク
C:	D: プライマリスレーブIDEハードディスク
SCSI	E: セカンダリマスターIDEハードディスク
CDROM	F: セカンダリスレーブIDEハードディスク
D:	
E:	LS: スーパーディスク
F:	Zip: IOMEGA ZIPドライブ
LAN	
Disabled	

### Advanced BIOS Features → Boot Other Device

<b><u>Boot Other Device</u></b>	この項目では、上記のデバイスから起動できなかった場合に、更に他のデバイスを検索するかどうかを指定します。
Enabled	
Disabled	

### Advanced BIOS Features → Swap Floppy Drive

<b><u>Swap Floppy Drive</u></b>	この項目では、フロッピーディスクのAドライブとBドライブを入れ替えて使用する際に設定します。3.5"ドライブと5"ドライブを併設している場合等に便利です。
Enabled	
Disabled	

### Advanced BIOS Features → Boot Up NumLock Status

<b><u>Boot Up NumLock Status</u></b>	この項目では、システム起動時にNUM LOCKキーを有効にするかどうかを選択します。通常のデスクトップキーボードの場合はOnのほうが便利です。Offになっている場合、テンキーはカーソルキーとして動作します。
On	
Off	

## AWARD BIOSの設定

### Advanced BIOS Features → Typematic Rate Setting

<b><u>Typematic Rate Setting</u></b>
--------------------------------------

Enabled
Disabled

この項目では、キーボードのキーを押しっぱなしにした際に、キーを連続入力させるかどうかを設定します。ゲーム等で、キーリピートが障害になる場合は、Disableに設定してください。

### Advanced BIOS Features → Typematic Rate (Chars/Sec)

<b><u>Typematic Rate</u></b>
------------------------------

6
8
10
12
15
20
24
30

この項目では、キーリピートを有効にした際に、1秒間に何文字入力するかを設定します。標準設定では、1秒間に30文字入力される設定になっています。

### Advanced BIOS Features → Typematic Delay (Msec)

<b><u>Typematic Delay</u></b>
-------------------------------

250
500
750
1000

この項目では、キーを押しっぱなしにしてからキーリピートが始まるまでの時間を指定します。例えば500ミリ秒に設定した場合は、文字目が入力されてから500ミリ秒後にキーリピートが開始されます。

### Advanced BIOS Features → Security Option

<b><u>Security Option</u></b>
-------------------------------

Setup
System

この項目では、システム起動時とBIOSセットアップメニューに入る時にパスワードを設定できます。カーソルでDisableから内容を変更すると、パスワードの入力とパスワードの確認入力を求められます。



## AWARD BIOSの設定

### Advanced BIOS Features → OS Select for DRAM > 64MB

#### OS Select for DRAM > 64MB

OS/2  
Non-OS/2

OS/2オペレーティングシステムを使用する場合で、メインメモリが64MB以上実装されている場合は、この項目をOS/2側にセットしてください。その他のオペレーティングシステムを使用する場合や、実装メモリが64MB以下の場合は、Non-OS/2側にセットしてください。

### Advanced BIOS Features → Show Logo On Screen

#### Show Logo On Screen

Enable  
Disable

この項目では、システム起動時にAOpenのロゴを表させるかどうかを設定します。

## AWARD BIOSの設定

### 3.4 拡張チップセット設定

"Chipset Features Setup"の項目では、チップセットの詳細な設定ができます。チップセットの設定は、システムのパフォーマンスに重要な影響を及ぼします。



**警告:** この項目では、システムに重大な影響を与える設定も変更することができます。設定の仕方によっては、システムに損傷を及ぼす恐れもありますので、十分注意して作業を行って下さい。

#### Advanced Chipset Features → DRAM Data Integrity Mode

**DRAM Data Integrity Mode**  
ECC  
Non-ECC

この項目では、DRAMのECC(エラー補正)機能を有効にするかどうかを選択できます。ECC機能付きメモリを使う場合以外は、Non-ECCに設定して下さい。

#### Advanced Chipset Features → System BIOS Cacheable

**System BIOS Cacheable**  
Enable  
Disable

この項目をEnableにすると、システムBIOSの内容をキャッシュすることにより、パフォーマンスを向上させることができます。ただし、環境によっては不安定になる場合もありますので、その場合はDisableに設定して下さい。

#### Advanced Chipset Features → Video BIOS Cacheable

**Video BIOS Cacheable**  
Enabled  
Disabled

この項目をEnableにすると、ビデオBIOAの内容をキャッシュすることにより、パフォーマンスを向上させることができます。ただし、環境によっては不安定になる場合もありますので、その場合はDisableに設定して下さい。

## AWARD BIOSの設定

### Advanced Chipset Features → Video RAM Cacheable

#### Video RAM Cacheable

Enabled  
Disabled

この項目を **Enable** に設定すると、ビデオ RAM の A000 番地及び B000 番地をキャッシュして、パフォーマンスを向上させることができます。ただし、環境によっては不安定になる場合もありますので、その場合は **Disable** に設定して下さい。

### Advanced Chipset Features → Memory Hole At 15M-16M

#### Memory Hole At 15M-16M

Enabled  
Disabled

この項目は、ISAアーキテクチャの16MBメモリ空間を切り離すかどうかを設定します。古い拡張カード等で、この空間を使用する場合は **Enable** に設定しないと動作が不安定になります。メインメモリは実装容量よりも1MB少なく表示されますが、異常ではありません。

### Advanced Chipset Features → Delayed Transaction

#### Delayed Transaction

Enabled  
Disabled

この項目では、ICHからのデータ分配速度を遅延させることができます。PCIカードやISAカードで動作タイミング上の問題が出る場合に設定を変更してみてください。

### Advanced Chipset Features → AGP Aperture Size (MB)

#### AGP Aperture Size (MB)

4  
8  
16  
32  
64  
128  
256

この項目では、AGPカードとメインメモリ間でのデータ転送量を設定できます。大きくしすぎると、動作が不安定になる場合があります。

# AWARD BIOSの設定

## 3.5 Integrated Peripherals

このメニューでは、I/O拡張デバイス等の設定ができます。

**Integrated Peripherals → On-Chip Primary PCI IDE**

**Integrated Peripherals → On-Chip Secondary PCI IDE**

**On-Chip Primary  
PCI IDE**

Enabled

Disabled

この項目では、チップセット内に統合されているIDEコントローラー機能を使用するかどうかを選択します。使用する場合、IRQを1つ消費します。

**Integrated Peripherals → IDE Primary Master PIO**

**Integrated Peripherals → IDE Primary Slave PIO**

**Integrated Peripherals → IDE Secondary Master PIO**

**Integrated Peripherals → IDE Secondary Slave PIO**

**IDE Primary Master  
PIO**

Auto

Mode 1

Mode 2

Mode 3

Mode 4

この項目では、IDEに接続する機器の転送速度を指定できます。通常はAUTOでお使い下さい。手動設定した場合の転送速度は、以下の通りです。

mode0 3.3MB/秒, mode1 5.2MB/秒, mode2 8.3MB/秒, mode3 11.1MB/秒, mode4 16.6MB/秒



**ご注意:** IDEケーブルには通常3つのコネクタが付いていますが、デバイスを1つしか接続しない場合は、一番端のコネクタに接続して下さい。真ん中に接続して端を余らせた場合、余っているケーブルからノイズを拾って誤動作する場合があります。

## AWARD BIOSの設定

**Integrated Peripherals → IDE Primary Master UDMA**

**Integrated Peripherals → IDE Primary Slave UDMA**

**Integrated Peripherals → IDE Secondary Master UDMA**

**Integrated Peripherals → IDE Secondary Slave UDMA**

**IDE Primary Master  
UDMA**

Auto

Disabled

この項目では、UltraDMA/33(または66)対応の接続した機器に対してUltraDMAでの動作を認めるかどうかを設定します。

**Integrated Peripherals → USB Controller**

**USB Controller**

Enabled

Disabled

この項目では、USBコントローラーを使用するかどうかを設定します。

**Integrated Peripherals → USB Keyboard Support**

**USB Keyboard  
Support**

Enabled

Disabled

この項目では、初期の頃のUSBキーボードをサポートするかどうかを選択します。お手持ちのUSBキーボードがDOSモード等でうまく動作しない場合に設定してみてください。



**ご注意:** レガシーUSBキーボードをお使いにならない場合は、この項目を**Disable**に設定して下さい。

**Integrated Peripherals → Init Display First**

**Init Display First**

PCI Slot

AGP

PCIビデオカードとAGPビデオカードが両方取り付けられている場合に、どちらを優先させるかを設定します。

**Integrated Peripherals → AC97 Audio**

**AC97 Audio**

Auto

Disabled

チップセットに内蔵されているAC97互換のサウンド機能を有効にするかどうかを設定します。

## AWARD BIOSの設定

### Integrated Peripherals → AC97 Modem

#### AC97 Modem

Auto  
Disabled

この項目では、チップセットに内蔵されているAC97互換DSP機能を使ったモデムを有効にするかどうかを設定します。AMRモデム出力端子カードを取り付けていない場合は、**Disable**に設定して下さい。

### Integrated Peripherals → IDE HDD Block Mode

#### IDE HDD Block Mode

Enabled  
Disabled

この項目では、IDEハードディスクのブロックデータ転送を有効にするかどうかを設定します。多くのドライブはこの機能に対応しており、パフォーマンスを向上させることができます。

### Integrated Peripherals → Power On Function

#### Power On Function

Any Key  
Button Only  
Keyboard 98  
Password  
Hot Key  
Mouse Left  
Mouse Right

この項目ではシステムの電源投入方法を設定します。

**Any Key:** どのキーを押してもシステムが起動します。

**Button Only:** ケースの電源スイッチのみを設定します。Windowsキーボードの電源ボタンも動作しません。

**Keyboard 98:** ケースの電源スイッチと、Windowsキーボードの電源ボタンが有効になります。

**Password:** あらかじめ設定しておいたキーの組み合わせ以外では電源が入らなくなります。

**Hot Key:** Ctrl+F1等、設定したキー操作で電源が入ります。ケースの電源スイッチも有効です。

**Mouse Left:** マウスの左ボタンをダブルクリックすると電源が入ります。ケースの電源スイッチも有効です。

**Mouse Right:** マウスの右ボタンをダブルクリックすると電源が入ります。ケースの電源スイッチも有効です。

## AWARD BIOSの設定



**ご注意:** キーボード／マウスパワーオンを有効にするためには、ジャンパーのJP28ピンを**Enabled**にセットする必要があります。

**Caution:** マウスでの電源投入は、PS/2マウスのみ対応します。USBやシリアルマウス等では動作しません。

**Caution:** もしパスワードを忘れてしまった場合は、CMOS CLEARを行って下さい。

**Caution:** スタンバイ電流容量の足りない電源装置等を使用した場合は、正常に動作しません。

### Integrated Peripherals → KB Power On Password

#### KB Power On Password

1文字から5文字のパスワードを入力して下さい。

### Integrated Peripherals → Hot Key Power On

#### Hot Key Power On

Ctrl-F1  
Ctrl-F2  
Ctrl-F3  
Ctrl-F4  
Ctrl-F5  
Ctrl-F6  
Ctrl-F7  
Ctrl-F8  
Ctrl-F9  
Ctrl-F10  
Ctrl-F11  
Ctrl-F12

“Hot Key”を選択した場合に、どのキーで電源を投入するか設定します。

## AWARD BIOSの設定

### Integrated Peripherals → Onboard FDC Controller

#### Onboard FDC Controller

Enabled  
Disabled

この項目では、オンボードのフロッピーディスクコントローラーを使用するかどうかを設定します。特別な増設カードを使用する場合以外は、**Enable**にしておいて下さい。

### Integrated Peripherals → Onboard Serial Port 1 Integrated Peripherals → Onboard Serial Port 2

#### Onboard Serial Port 1

Auto  
3F8/IRQ4  
2F8/IRQ3  
3E8/IRQ4  
2E8/IRQ3  
Disabled

この項目では、オンボードのシリアルポートのアドレスを設定します。標準設定では、**Auto**になっています。



**参考：**ネットワークカードを使用する場合は、アドレスが競合しないように注意して下さい。

### Integrated Peripherals → UART Mode Select

#### UART Mode Select

IrDA  
ASKIR  
Normal

この項目では、オンボードの赤外線通信端子の通信形式を設定します。赤外線ポートは、シリアルポート2と排他利用になります。それぞれの形式の概要は、以下の通りです。（※日本国内で赤外線ユニットは取り扱っておりません）

- **ASKIR** - 外付けの赤外線通信ユニットを使用して、ASKIR方式の赤外線通信機器と最大56Kbpsで通信ができます。
- **HPSIR** - 外付けの赤外線通信ユニットを使用して、HPSIR方式の赤外線通信機器と最大115Kbpsで通信ができます。
- **FIR** - 外付けの赤外線通信ユニットを使用して、FIR(Fast IR)方式の通信機器と最大4Mbpsで通信ができます。



## AWARD BIOSの設定

- **Normal** - 通常の設定です、シリアルポート 2 が有効になります。

### Integrated Peripherals → RxD, TxD Active

#### RxD, TxD Active

Hi, Hi  
Hi, Lo,  
Lo, Hi  
Lo, Lo

赤外線データ送受信の信号を切り替えます。通常は設定を変更しないで下さい。

### Integrated Peripherals → IR Transmission Delay

#### IR Transmission Delay

Enabled  
Disabled

Enabledを選択した場合、送信モードから受信モードに切り替える際に 4 文字分の遅延時間を設けます。

### Integrated Peripherals → Onboard Parallel Port

#### Onboard Parallel Port

3BC/IRQ7  
378/IRQ7  
278/IRQ5  
Disabled

オンボードパラレル端子の割り込み番地を設定します。



**参考:** 拡張I/Oパラレルカードを増設する場合は、IRQの競合に注意して下さい。

## AWARD BIOSの設定

### Integrated Peripherals → Parallel Port Mode

#### Parallel Port Mode

SPP  
EPP  
ECP  
ECP + EPP

この項目では、パラレルポートの動作モードを設定します。動作モードには、SPP (Standard and Bidirection Parallel Port), EPP (Enhanced Parallel Port), ECP (Extended Parallel Port)があります。SPPモードは、IBM AT及びPS/2互換モードです。EPP拡張モードの場合は、双方向通信やデータ圧縮機能等がサポートされます。

### Integrated Peripherals → EPP Mode Select

#### EPP Mode Select

EPP1.7  
EPP1.9

EPPモードの詳細を設定します。接続する機器がリクエストしている設定にしてください。

### Integrated Peripherals → ECP Mode Use DMA

#### ECP Mode Use DMA

3  
1

ECPモードを使用する際の、DMA割り込みアドレスを指定します。

### Power Management → PWRON After PWR-Fail

#### PWRON After PWR-Fail

Former-Sts  
On  
Off

通常のATXシステムでは、主電源が切断されるとその後主電源が復帰してもシステムはダウンしたままですが、この項目をOnにしておくことで、自動的に再起動させることができます。サーバー用途等で活用してください。

### Integrated Peripherals → Game Port Address

#### Game Port Address

Disabled  
201  
209

ゲームポートのアドレスを設定します。

## AWARD BIOSの設定

---

### Integrated Peripherals → MIDI Port Address

<u>MIDI Port Address</u>
--------------------------

Disabled
----------

330
-----

300
-----

290
-----

MIDIポートのアドレスを設定します。

### Integrated Peripherals → MIDI Port IRQ

<u>MIDI Port IRQ</u>
----------------------

5
---

7
---

MIDIポートのIRQを設定します。

## AWARD BIOSの設定

### 3.6 パワーマネージメント設定

この項目では、マザーボードの省電力に関する設定をします。

#### Power Management → ACPI Function

<u>ACPI Function</u>	
Enabled	お使いのオペレーティングシステムがACPI機構に対応している場合は、この項目を <b>Enabled</b> にしてセットアップすることにより、より細かく省電力の設定をすることができます。
Disabled	

#### Power Management → ACPI Suspend Type

<u>ACPI Suspend Type</u>	
S1	ACPIサスペンド機能を使用する際に、 <b>S1</b> はパワーオンサスペンド、 <b>S3</b> はRAMサスペンド(Suspend to RAM)動作をします。
S3	

#### Power Management → Power Management

<u>Power Management</u>	
Max Saving	どの程度省電力機能を使うかを設定します。
Mix Saving	
User Define	

Mode	サスペンド	HDD回転停止
Min Saving	1 hour	15 min
Max Saving	1 min	1 min

## AWARD BIOSの設定

### Power Management → Video Off Method

#### Video Off Method

V/H SYNC + Blank  
DPMS  
Blank Screen

システムがサスペンドモードに入った際に、モニターに対してどのような信号を送るかを設定します。お手持ちのモニターが一番省電力になる出力信号を設定して下さい。

### Power Management → Video Off In Suspend

#### Video Off In Suspend

No  
Yes

システムがサスペンドモードに入った際に、ビデオ出力を停止するかどうかを設定します。

### Power Management → Suspend Type

#### Suspend Type

PWRON Suspend  
Stop Grant

サスペンドモードに入った際の、CPUの動作を設定します。**PWRON Suspend**の場合はCPUは通常の待機モードに入り、**Stop Grant**の場合はクロックまで含めて最大限の省電力をします。

### Power Management → Modem Use IRQ

#### Modem Use IRQ

3  
4  
5  
7  
9  
10  
11  
N/A

モデム着信でサスペンドから復帰させる為にも、モデムが使用しているIRQ番号を指定します。

## AWARD BIOSの設定

### Power Management → Suspend Mode

#### Suspend Mode

Disabled  
1 Min  
2 Min  
4 Min  
8 Min  
12 Min  
20 Min  
30 Min  
40 Min  
1 Hour

システムが使用されなくなってから、どのぐらいでサスペンドモードに入るかを設定します。

### Power Management → HDD Power Down

#### HDD Power Down

Disabled  
1 Min  
.....  
15 Min

ハードディスクへのアクセスが終了してから、どのぐらいでハードディスクの省電力モードに入るかを指定します。

### Power Management → Soft-Off by PWR-BTTN

#### Soft-Off by PWR-BTTN

Delay 4 sec.  
Instant-Off

この項目では、ケースの電源スイッチが押された時の動作を設定します。（これはACPI規格に準拠した仕様です）

**Delay 4 sec.** を選択した場合、電源スイッチを1回押すとシステムサスペンドモードに入り、約4秒以上押すと電源が切断されます。標準状態では**Instant-Off**に設定されており、電源スイッチを押すとすぐに電源が切断されます。（ただし、OSがフリーズしている場合は、4秒以上押す必要があります。）

### Power Management → 0V Wake On Modem

#### 0V Wake On Modem

Enabled  
Disabled

ゼロボルトウェイクアップ機能対応のモデムカードを接続して、この機能を使用する場合に**Enabled**に設定します。

## AWARD BIOSの設定

### Power Management → Wake On LAN

#### Wake On LAN

Enabled  
Disabled

LAN Wake Up機能を仕様する際にEnabledに設定します。

### Power Management → Wake On RTC Timer

#### Wake On RTC Timer

Enabled  
Disabled

マザーボードに実装されているシステムタイマーを使って、一定時刻に自動起動させる場合にEnabledに設定します。

### Power Management → Date (of Month)

#### Date (of Month)

0  
1  
.....  
31

この項目は、自動起動させる日時を設定します。例えば15に設定した場合は毎月15日に自動起動します。



**参考:** 日付を0に設定すると、毎日指定時刻に自動起動します。

### Power Management → Time (hh:mm:ss)

#### Time (hh:mm:ss)

Hh:mm:ss

この項目では、自動起動する時刻を設定します。書式は時：分：秒です。



**ご注意:** パソコンのシステムタイマーの精度は一般に時計に比べて高くないので、1ヶ月で十数分程度のズレは発生します。

## AWARD BIOSの設定

---

Power Management → Primary IDE 0

Power Management → Primary IDE 1

Power Management → Secondary IDE 0

Power Management → Secondary IDE 1

Power Management → FDD, COM, LPT Port

Power Management → PCI PIRQ [A-D] #

<u>Primary IDE 0</u>
Enabled
Disabled

これらのアイテムは、指定したポートに割り込み信号が入った時にサスペンド状態から復帰するかどうかを指定します。たとえばCOMポートをEnabledにした場合は、COMポートに接続された機器が動作した場合にサスペンドから復帰します。



# AWARD BIOSの設定

## 3.7 PNP/PCI設定

この項目では、ISA及びPCIデバイスの設定を行います。

### PNP/PCI Configuration → Reset Configuration Data

<b><u>Reset Configuration Data</u></b>	この項目をEnabledにしてシステムを再起動することにより、IRQ、DMA、I/Oアドレス等の設定を出荷状態に戻すことができます。設定を変更しても競合状態が改善できない場合等に試してください。
Enabled	
Disabled	

### PNP/PCI Configuration → Resources Controlled By

<b><u>Resources Controlled by</u></b>	この項目をAutoにすると、PCI及びPnP ISAカードのIRQやDMA設定を自動で行います。通常はAutoの状態でお使い下さい。
Auto	
Manual	

- PNP/PCI Configuration → IRQ3 (COM2)
- PNP/PCI Configuration → IRQ4 (COM1)
- PNP/PCI Configuration → IRQ5 (Network/Sound or Others)
- PNP/PCI Configuration → IRQ7 (Printer or Others)
- PNP/PCI Configuration → IRQ9 (Video or Others)
- PNP/PCI Configuration → IRQ10 (SCSI or Others)
- PNP/PCI Configuration → IRQ11 (SCSI or Others)
- PNP/PCI Configuration → IRQ12 (PS/2 Mouse)
- PNP/PCI Configuration → IRQ14 (IDE1)
- PNP/PCI Configuration → IRQ15 (IDE2)

<b><u>IRQ 3</u></b>	お使いのISAカードが旧式のPnP非対応カードの場合、この項目であらかじめIRQを割り当てておく必要があります。ここで割り当てたIRQはこのカード専用に予約され、他のPnPデバイスが使用することはありません。特に問題が発生した場合以外は、PCI/ISA PnPの状態でお使い下さい。
Legacy ISA	
PCI/ISA PnP	

## AWARD BIOSの設定

---

### PNP/PCI Configuration → PCI/VGA Palette Snoop

<b><u>PCI/VGA Palette Snoop</u></b>
-------------------------------------

Enabled
Disabled

お使いのMPEGカードやビデオキャプチャカードがリクエストする場合以外は、**Disabled**の標準状態でお使い下さい。

### PNP/PCI Configuration → Assign IRQ For VGA

<b><u>Assign IRQ For VGA</u></b>
----------------------------------

Enabled
Disabled

お使いのビデオカードがIRQを必要とする場合に**Enabled**に設定してください。

### PNP/PCI Configuration → Assign IRQ For USB

<b><u>Assign IRQ For USB</u></b>
----------------------------------

Enabled
Disabled

USB機能を使われる場合は、この項目を**Enabled**に設定してください。

## AWARD BIOSの設定

### 3.8 PCヘルスステータス

この項目では、マザーボードの健康状態（発熱や電圧等）を監視する為の設定をします。

#### PC Health Status → CPU Warning Temperature

<b><u>CPU Warning Temperature</u></b>
---

Disabled
----------

50°C / 122°F
--------------

53°C / 127°F
--------------

56°C / 133°F
--------------

60°C / 140°F
--------------

63°C / 145°F
--------------

66°C / 157°F
--------------

70°C / 158°F
--------------

この項目で設定した温度をマザーボードのセンサーが感知すると、BIOSレベルで警告音を出します。

## AWARD BIOSの設定

### 3.9 Frequency Control（周波数設定）

この項目では、CPUやメモリの周波数設定をします。

#### Frequency Control → RDRAM Bus Frequency

<b><u>RDRAM Bus Frequency</u></b>
---------------------------------------

200 MHz
266 MHz
300 MHz
400 MHz

この項目では、RDRAMの動作周波数を設定します。お手持ちのメモリの定格周波数を超えない範囲で設定してください。

#### Frequency Control → Clock Spread Spectrum

<b><u>Clock Spread Spectrum</u></b>
---

Enable
Disable

この項目は、EMI（電磁波障害）検査の為に設けられています。通常は標準設定のままでお使い下さい。

#### Frequency Control → CPU Speed Setting

<b><u>CPU Speed Setting</u></b>
---------------------------------

100, 105, 114, 120, 124, 128.5, 133.3, 133.9, 138, 143, 148, 152.5, 155, and 160 MHz.
---

x2, x2.5, x 3, x 3.5, x 4, x 4.5, x 5, x 5.5, x 6, x 6.5, x 7, x 7.5, and x8
---

この項目では、CPUの外部周波数(FSB)と周波数倍率を設定できます。お使いになるCPUによっては、これらの設定が無視される場合もありますが、故障ではありません。

## AWARD BIOSの設定

---

### 3.10 Load Setup Defaults

この"Load Setup Defaults"で呼び出される設定は、最も信頼性が高く安定するタイミングに設定されています。互換性テスト等もこのモードで行われています。特にスピードが求められる場合以外は、こちらでお使い下さい。

### 3.11 Load Turbo Defaults

この"Load Turbo Defaults"で呼び出される設定は、互換性を多少犠牲にしても最高のパフォーマンスを引き出す為に用意されています。3 %から5 %の高速化をすることが可能ですが、メモリやVGAカードにも高い精度が求められます。

## AWARD BIOSの設定

---

### 3.12 Set Password（パスワード設定）

この項目でパスワードを設定することにより、システム起動時とBIOSセットアップメニュー操作時にパスワードによる認証を求めることができます。

パスワード設定の方法：

1. 入力枠にカーソルを持っていき、8文字以内の半角英数字を入力して下さい。入力された文字は米印で表示されます。
2. 次の枠にカーソルが移動するので、パスワードの確認入力をして下さい。

※パスワードの使用をやめる場合は、Disabledに設定を変更します。

### 3.13 Save & Exit Setup（保存終了）

この項目を選択すると、変更した設定内容を保存した後、BIOSセットアップメニューを終了します。

### 3.14 Exit without Saving（保存せずに終了）

この項目を選択すると、設定内容を破棄してBIOSセットアップメニューを終了します。

### 3.15 Load EEPROM Defaults

この項目を選択すると、3.16で保存できるオリジナルの設定を呼び出すことができます。

## AWARD BIOSの設定

### 3.16 Save EEPROM Defaults

この項目では、設定した内容を一時記憶領域に保存することができます。この設定は、電源を切っても保存されますので、CMOS CLEARをした後などに再設定する手間を減らせます。

### 3.17 BIOSアップグレードの方法

AOpenでは、EasyFlash（イージーフラッシュ）と呼ばれるよりユーザーにとって簡単なBIOSアップグレードツールを提供しています。これはフラッシュツールとBIOS ROMコードを一体化した物で、英語モードのDOSで起動して、実行するだけでBIOSアップグレードができます。

1. WEBサイト等から、新しいBIOSプログラムをダウンロードします。
2. フロッピーディスクをシステム付きでフォーマットしてから、新しいBIOSプログラムをコピーします。この時、EMM386等のメモリマネージャーと、日本語フォントは組み込まないで下さい。
3. フロッピーからシステムを起動し、ダウンロードしたプログラムを実行します。  
アップデート作業中は、絶対に電源を切ったりリセットしたりしないで下さい。
4. 書き込みが終了したらシステムを再起動し、BIOSをセットアップして下さい。



**Note:** BIOSをアップデートした場合、それまで設定していた情報はすべてクリアされます。Windows95/98のPnP環境で使われていた場合は、PnP設定情報クリアされますので、システム環境を再設定する必要があります。